

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとして「地域の中で共に支えあい、共に歩む」を基本理念として、地域に開かれた施設となるよう取り組み、質の確保をめざしている。	○ 積極的に地域活動に参加し、地域の一住民となつて行けるよう、又地域のニーズを引き出し、支援していくことに努めている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議やカンファレンス、勉強会及び日常業務をを通じて理念を共有具体化できるよう管理者及び苑長と職員間で意見を出し合っている。また、その思いを基にスタッフ全員で標語を考え掲示している。	○ 関わりや具体的なケアが理念の実践となっているのかという視点で掘り下げて検討していくこと。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議や家族会及び面会時に、利用者の行事や日常生活の中で地域とのふれあいを知らうようにしている。	○ 運営推進会議及び茶話会の開催や家族の行事への参加を推進している。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の畑やいきつけの店、散髪屋などで、畑仕事を教えて頂いたり店員さんと顔なじみになる等交流を深めている。	○ 気軽に立ち寄ってもらえるように付き合いを発展していきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会や民生委員の方々を通過しての行事（花見、七夕まつり、もちつき等）や他地域小学校の祭り参加や併設施設に招いての交流など積極的に交流することに努めている。	○ 小中学校、幼稚園、保育所等の行事に参加して子どもたちと交流を深め、自治会・老人会への参加を進めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	法人として地域への取り組みを行っている。	○	事業所として、高齢者の暮らしに役立つことを話し合い取り組み、共に支えあうことを確立して行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を一つの節目としてとらえ、全職員が一連の過程を通じて振り返り出来ている事、出来ていない事を確認し合っている。又アドバイスされた事は当日または近日中に改善策を講じている。	○	常に前向きに且つ理念を忘れず進んで生きたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でホームでの生活や暮らしぶりをスライドやビデオで放映する事で、より身近に感じてもらい、より率直な意見を出してもらえる様に取り組んでしる。また、これまでの評価結果を踏まえ現在取り組んでいる内容についても報告し意見をもらうようにしている。	○	意見が出やすいような雰囲気作りに努め、いただいた意見を真摯に受け止めサービス向上に活かして行きたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	北保健福祉総合センター及び北区地域包括支援センターとは研修会等の開催やケースの相談等連携は適宜行われている。	○	常に連携をとり、地域の中でその人らしく暮らし続けられるよう支えて行く。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域グループホーム勉強会や、文献などで学習している。	○	制度を活用するケースが増えてくることが予測されるため理解を深めて行きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内に身体拘束廃止、虐待防止委員を設置している。委員を中心に全職員が学ぶ機会として勉強会で例を挙げて検討している。	○	虐待について具体的に理解し防止するようになっていく。又、職員がストレスを溜めないような様々な環境作りに努めていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	○	不安や疑問を尋ねるための時間や説明にはゆとりを持って行っていく。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	意見・不満・苦情を伝えそれが改善に向けて努力され生活に変化をもたらすというところまで利用者が実感できる様にしていきたい。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	○	おこづかいの使途を通じて暮らしぶりが伝わることもある。金銭トラブルがないよう保管にも注意している。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	運営推進会議でも家族代表の意見を求めて行きたい。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	○	今後も積極的に意見交換を行い運営に反映させて行きたい。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	○	利用者の求めるものを必要な時に柔軟な対応ができるよう調整して行く。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	顔なじみ職員によるケアを心がけているが、異動や離職がやむを得ない場合も引継ぎに努力をし継続したケアが行われるように配慮している。	○	引継ぎの期間を充分に取るようにしていきたい。マイナス面ばかりでなく「新しい風」が入るととらえ新鮮な気付きもあり利用者が望むものに一歩づつ近づいていきたい。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員、非常勤職員ともに研修の機会を設けている。その内容は勉強会で報告され報告書として全員が閲覧するようにしている。また、書籍の貸し出しを行い自己学習に役立てている。	○	資格取得を目指す職員には勤務体制への配慮も必要である。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北区においては北グループホーム会を作り、毎月1回会議を開催、情報交換、勉強会、事例研究、相互訪問、相互研修等行い活動を通じて事業所外の人材の意見や経験をケアに生かしている。	○	今後もさらに活発に活動し、グループホーム全体の質の向上と地域支援へと発展させていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	苑長と職員また、職員同士なんでも言い合える雰囲気作りに努めている。勤務状況に応じ他ユニットに入ったなど行き詰らない様に配慮している。	○	利用者から受ける喜びや感動、感激を共有し、働きやすい環境づくりを心がけていく。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	月に1回勉強会を行っている。テーマごとに各自、自己学習しその報告、職員間での共有を図る。またそこで得たものを実際にどうケアに活かすかまで掘り下げて考え発表する事を目標としている。	○	職員個々の努力や実績個性を認めプライドを持って働けるようにしていきたい。勉強会、研修などを通して今行っているケアの確認、気付きなどにもつながり前向きに取り組んでいる。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人からの訴えを傾聴し、受け止めるよう努めている。	○	初期に築く本人との信頼関係の重要性を理解している。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の立場から物事を考え、不安や困っていることを具体化し、求めていることは何か理解に努めている。	○	本人だけでなく家族の立場での不安、求めていること迄をも視野に入れることはたやすいことではないが努力して行きたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」必要とする支援を法人全体で対応している。	○	緊急性を見極めた対応にも努めていく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にながら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	他ユニットでやむを得ず、すぐに利用となったケースがある。家族に協力を求め職員も安心感を持っていただけるよう努力した事例であり、臨機応変に対応していく。	○	馴染んでもらうための試行錯誤の努力をしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	自分の思いを上手く言葉に出来ず他者とトラブルになりがちな方にも、職員が間に入り人間関係の調整をしたり、何か作業をする時には一緒に行い、ともに出来る喜びや達成感を共有できるようにしている。	○	職員がどうしても利用者を見守ることが出来ない時は他利用者に見守りを依頼する事もあり、職員も助けてもらっている。入居者から学ぶことも多く気付かされることや生き方までが感じ取られる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族付き添いでの病院受診、携帯電話を用いての自由な連絡、季節ごと衣替えなど、家族ならではの役割を通し家族の思いを知り共に支えていくような関係を築いていく。	○	生活は共にしていないけどいつも家族の中には家族の一員であることの実感があり、利用者本人も自覚を持ちながら生活されている、という事を理解していく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	認知症で言葉が出にくく家族へ怒ってしまう利用者へは、職員が間に入っの思いの伝達など行っている。各自の活動したことなど、家族来苑時には伝えるようにして家族と共に外出、外食する機会を作っている。	○	外出（美容室・食事・買い物）のついでに自宅に立ち寄り、家族の皆に会える機会を作っている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の夏祭りや年賀状、手紙の交信を継続し馴染みの人との関係が断ち切らないように努めている。	○	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士で声を掛けあって行事等と一緒に参加している。少しの間車椅子を押してもらうことによって、利用者同士の関わりを増やしている。食事の支度の場合、それぞれの役割を持ちつつ配膳時には利用者同士が「これはあなたの分」とかそれぞれ箸や茶碗を皆の分覚えてくれており「○○さんの」とやり取りしている。	○	新しく入居された利用者が、自然とこの中にとけ込まれ、今までと同じような利用者同士の関係が保たれるように支援していく。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ここでの馴染みの関係が持続できる様な関わりをもっている。	○	馴染みの関係として時には懐かしく思えるような心の支えとなるよう入居中からの関わりを持つ。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言葉だけではなく、表情や仕草など気付いたこと、また家族や関係者より情報を集めスタッフ間で共有し、本人の思いを知るために把握、検討に努めている。	○ その時々によって変化する希望や意向をスタッフ間で検証し、検討して行きたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の思い出話や家族との会話の中から生活歴や習慣などの把握に努めている。	○ まだまだ把握できていないのが現状であり、その人が行きたい所ややりたい事を日常の暮らしの中から少しでも把握できるようにしたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	廊下を歩いているときや、居間にいるときなど様々な場面で何気ない会話をする事で心身状態を読み取り、現状把握に努めカンファレンスにもって行く。	○ ケース記録、事業日誌、連絡ノート等を活用し、日々の関わりの中で心身ともに変化を見逃さないよう努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族からの情報のみならず、日常の会話や行動及び他ユニットや夜勤スタッフからも情報収集し課題となることを検討、本人や家族の思いに沿って計画を作成している。また、家族の訪問時には近況を伝えると共にプランについても話し、確認を取っている。医療面は看護師と話し合う。	○ 必ずしも関係者が一堂に会することばかりではないので日頃より広く意見を集めるようにしている。今後さらに記録やモニタリングが次の介護計画へとつながる様に持って行く。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しの必要がある時はカンファレンスを行いモニタリングの結果、計画を見直すようにしている。	○ 話し合う機会をすぐに設けるのが難しい場合もある。また、中々話す機会を持ちにくい家族もあるので解決したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に記入し、申し送りの口頭だけでなくユニットでの連絡ノートに記入して確認のサインをすることによって、情報を共有している。又、夜勤者には宿直室に申し送る内容を紙で貼り出すことで、漏れがないように実践や見直し等に活かしている。	○	勤務入りした際の日勤・夜勤者間での申し送り、ケース記録や連絡ノートの閲覧と確認サインの記入。「夜勤者の皆様へ」と題した夜勤者用の申し送りを記した貼り紙。早出遅出の際他ユニットから応援に来た職員にもわかる様に張り紙をする。その得た情報をいかに実践活用していくかも課題である。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて通院等の必要な支援には柔軟に対応している。医療連携体制を活かしその利用者にとって負担となる受診や入院の回避、早期退院の支援、医療処置を受けながらの生活継続、重度化した場合や終末期の入院の回避。	○	医療連携体制の充実により、内科、整形外科、歯科、精神科受診が可能である。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	出初式や学校の文化祭等に参加している。また、医学部学生の実習を受け入れ、利用者が健康面での相談をする機会となっている。	○	もっと多くの協力機関を作って行きたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて対応や協力は行いたい。	○	必要が生じたら速やかに対応して行く。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している		○	地域包括支援センターと協働することにより地域の状況把握に努める。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を持たない利用者は本人・家族同意のもと法人施設医、協力医療機関等の医師としている。また入居前からのかかりつけ医での継続した医療も受ける支援をしている。定期受診で家族同行不可能な場合は職員が同行している。歯科訪問診療を定期的に受診し継続的な医療を支援している。	○	今後も家族との連携を密にしたい。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科医の診療を受けている。職員の相談も気軽に行えている。	○	
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	苑長・看護師兼務となっている。	○	看護師は利用者の平素の状況の把握に努め、変化をキャッチするスタッフの声に耳を傾けて行くこと。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した際、看護、介護サマリーの提出により利用者の情報を医療機関に伝え、生活が継続できるよう配慮している。また、入院中は状態に応じ面会を行っている。	○	医療機関から情報を得ながら早期退院ができるよう働きかけて行く。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日々の関わりの中から本人及び家族の意向を早い段階から汲取り、施設が対応しうる支援方法を示しながら家族、本人と話し合いできるだけこの生活が続けられるようスタッフ間で方針を共有している。	○	本人に「ここで過ごしたい」と言ってもらえる様なユニットを目指したい。重度化・終末期の支援について自己研鑽を積んで行きたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	施設が対応しうる最大の支援方法をスタッフ間で明らかにし、重度や終末期の利用者がより心地良く暮らして行けるよう努力している。	○	それぞれが抱え込んでしまうことなく、チームで支えるという意識を持って取り組んで行く。チームみんなが優しい気持ちと暖かい心を伝える技術を最大限に発揮できるようにして行きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	現在の取り組みをさらに充実したものとし、ダメージを防ぐ。
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	○	人生の大先輩であるという意識を常に持ち、症状がその方の全てではないことを念頭に置き、受け止める心やその人らしく生きて行けるような支援をしたい。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	○	本人の気持ちとやる気を尊重し作品の進み具合や出来栄を折にふれ伝え達成感を持ってもらえるようにしている。又、季節や好みの題材にも工夫している。出来上がった作品は素晴らしいものであり、本人の集中力、意外性から学ばされている。
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	○	全体としての輪を保ちながら個々の生活を大切にやり取りしている。
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	○	日常的にも清潔で本人の気に入った服装で過ごされている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日朝・昼食を母体施設調理室に取りに行く役割、人数出勤者に合わせた準備をする役割などそれぞれが役割を持ち「頂きます」と手を合わせ皆で揃って食べることを楽しみにしている。	○	畑で出来た野菜や果実と一緒に収穫する楽しみや季節の物を味わえるメニュー作りを提供している。嫌いな食べ物は器に入れず代替を行っている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつ作りをして自分の分を作って食べる楽しさや、他利用者へ自分が関わったおやつを食べてもらい、そこから会話する喜びを味わってもらう。飲み物は好みの温度がある為何う。	○	アレルギーのある方や苦手なメニューのある利用者へは、それにかわるメニューを提供している。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	月間の排泄表を使用することで排泄パターンの把握をし、排泄介助が必要な利用者は一日ごとに排泄時間を記入する表を使うことで、失敗やオムツの使用を減らし気持ちよく排泄できるように支援している。	○	排尿の間隔がつかみにくい時もあるがトイレで気持ちよく排泄ができる様に関わっている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	脱衣所が寒すぎたり暑すぎない様、温度調節をしている。自分のカレンダーに入浴日を記入している利用者には行事等重なった場合、優先する方を決めてもらう。入浴が負担に感じられる利用者に対しては見守りや一部介助でそれを軽減できる様タイミングを見計らった声掛けをしている。	○	毎日入浴したい方や、日にちを決めて入っている方が希望日に入浴する時に、時間帯が重なり嫌な思いをされないように気をつけている。入浴を強く嫌がる利用者に対してはその方にあった声掛け方法で入浴してもらえよう関わって行きたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その人の今までの生活習慣に合わせて昼寝をして休息を取ってもらったり、気持ちよく眠れるよう各利用者に合わせた居室の温度調節をしている。	○	眠いサインや疲れた様子を見逃さず、入眠や休息がスムーズに図れるよう支援していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	習字が得意な人には献立表のメニューを書き、植物が好きな人には毎朝の水やり、実際に行わなくても見て楽しんでもらう等、その人に合わせた支援をしている。又、時折散歩や買い物に出掛け外の空気を吸い閉じ籠りきりにならない様になっている。作品作りをした時には展示し皆に見てもらい次作のやる気に繋げれる様にしている。食器洗いを日課にしている方が2人いる為、タイミング見て代わって貰える様に声を掛ける。	○	利用者が相手の役割を理解し認め合い助け合って生活できる様支援している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外食等で支払いの時はその時に払ってもらい、お金を支払っているという感覚を大切にしてくれるよう支援している。又、支払い場面で残金をさり気なく確認しトラブルにならない様注意している。	○	耳が遠く聞きにくい方へは職員が間に入り店員等とのつながりを作っている。お金を所持されている方からは、毎月お茶代500円を預かり領収書を渡すやり取りを行っている。その際、先月のおやつ支出費への確認をもらいサインをもらっている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に沿って散髪やクリーニング、近くのスーパーへ買い物へ行き、又特に希望がない場合でも散歩や外出の機会を設けて戸外に出られるよう支援している。畑を借りており収穫の時は共同して作業している。外出表を作成し状況を把握しやすい様にしている。	○	買い物へ行きたいと訴えをされる時は、その都度対応している。季節を感じてもらえるようにお弁当やおやつを持って戸外に出掛けている。近くの喫茶店にも出掛けたりしているケースもある。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠足や大泉緑地へ年2回ヒーリングガーディナーへ出掛け普段とは違う場所で、食事をしたり散歩して楽しんでもらえる機会を作っている。植物が好きな利用者は園芸店に買い物へ行き、楽しんでもらえるように支援している。	○	希望を反映できる機会を増やして行きたい。貸し切りバスでの小旅行は今後も続けてゆきたいと思っている。外出する時に家族にも参加してもらっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持して家族と自由に連絡がとってもらえる。姉妹などお互い高齢などでなかなか会えない利用者には写真を同封した手紙や職員が間に入って電話をする。	○	手紙が届いたときには「返事書きますか？」等の声を掛け、家族とのつながりを保っていらっている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来苑された時には、居室の椅子を確保したり居間の提供をしている。職員が間に入っての会話をしている。お茶とお菓子を出すことでゆっくりと過ごしてもらえるようにしている。	○	自室で過ごされることもあるが、居間で他者を交えて談話をされたりと自由に過ごしてもらっている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束とは何かを常に考えながら日々関わりを行う。また、職員間で指摘しあえるような雰囲気作りにも心がけている。勉強会でも例に挙げて気付き確認し合っている。	○	今後も勉強会や研修で身体拘束と虐待についての理解を深め確実なものとして行く。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階の自動販売機へジュースを好きな時に買いに行ける。食事などでの台所の出入りは、職員のみでなく利用者が人数分の食器を出したり、メニューから器を選ぶ楽しみをもってもらっている為鍵をかけないようにしている。突然杖と外履きの靴を持って外出着の利用者にとことん(可能な限り)付き添い外に出ている。	○	行きたい所へ行けることの自由さと安心を持ってもらえる様にしている。玄関は特養と併設の為防火戸となり、閉めるが朝玄関まで新聞を取りに行かれるので起床とともに開けている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間の巡回時や職員室のモニターで利用者の所在や様子を把握し安全に過ごせる様にしている。利用者同士が送り迎えをしてくれているので、お互いの安全の為に必要な時には言葉を掛けている。	○	利用者がお互いに支えあうという気持ちを大切に受け止め、関わっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人の希望や状況、家族の意向も伺いハサミ等の文房具を本人管理している方もいる。洗剤類等の危険なものは鍵付きの場所で保管している。	○	ハサミ等居間で扱うときは見守りと状況に応じて利用者に注意してもらうよう声を掛け危険を防いでいる。おかきやクッキー等に付いている防腐剤、乾燥剤にも配慮している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告書や事故報告書の検討や対策を職員同士で行い参加できなかったものに後日確認し確認印をすることで今後の防止に努めている。また、日々の申し送りやケース記録にも記入することで再確認を行っている。	○	事故があったときには速やかに対策を立て、他ユニット、特養の事故なども伝え合うことで事故の再発防止に努めていきたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急連絡網、入浴時の急変時対応表、体調不良時のチェックポイントを置き活用するようにしている。勉強会で知識を学び実体験をすることで、より現場に対応できるようにしている。	○	職員が緊急時に落ち着いた対応ができるよう日頃から心がけるようにしたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し消防署による協力のもと、定期的に消防避難訓練を行っている。また、運営推進会議等で地域の方々に協力を得られるよう働きかけている。 震災時の初期対応の訓練も行った。	○	近隣住民の協力も得られるよう働きかける。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクのない生活はないということを基準に利用者がよりその人らしく暮らしてゆけるような働きかけを行いその都度家族等に説明している。	○	家族が気兼ねなく訪問することで家族も共に支えているということとリスクの理解を深める。生活のどの場面においても、本人の機能理解した上で必要に応じ見守り付き添い介助を行っている。外出の際の歩行状態が室内とは違うことを理解し対応している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	言葉だけではなく表情、歩行、排泄、食欲、声の大きさなど一つ一つの動作から体調の異変に早期に気付くよう努力し、速やかに連絡を取り合っている。	○	速やかな対応を心がけて行く。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報表を作成し、理解に努めており症状の変化があれば看護師に連絡している。	○	配薬時に名前と日付を確認し、誤薬のないようにしている。錠剤を紙に来るんでカバンにしまおうとしたケースがあり注意していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	浣腸に頼らない自然排便へと考え、食事内容水分摂取を検討している。	○	看護師と連携しながら薬の調整を図っている。便通をよくする食材なども取り入れている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自分で義歯の管理ができる利用者に対しても確認をおこなっている。訴えがあった時は歯科受診を行う。歯科衛生士の資格を持つ職員によりケアのアドバイスももらっている。	○	舌ブラシを使用し口腔ケアを行っている。物品を常に清潔に保てるようにしていきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士が献立を作成している。水分摂取量は表を作成し、個別の必要量を確認した上で1週間単位で状態が把握できるようにしている。	○	表は記入するだけにとどまらず有効活用する。嚥下や咀嚼力が低下している入居者に関しても偏ることなく食事を摂ることができる様にトロミのだし汁を使用したり、お粥やおじやを作っている。水分摂取量が少ない利用者への対応について検討していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	手洗い、うがいの奨励や布団の乾燥、空気の入替えなどを行っている。また、感染症には予防マニュアルを普段から目に付くところに貼りだし活用している。	○	習慣的、継続的に行えるようにしたい。また予防と早期発見に努める。併設施設の感染症、発症状況を速やかに把握して持ち込まないようにしていく。また、職員の健康管理にも努めていく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的な台所の消毒や冷蔵庫の清掃を行い衛生管理に努めている。保存している食材には日付を必ず記入している。新しく調理から来たものでも賞味期限を確認するようにしている。食品衛生管理者から指導を受けている。	○	現状を維持する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の植木や花を飾ることもあり、陵東館秀光苑の掲示板は最高年齢の方が書道教室で書いてこられたものである。	○	玄関は防火戸となっているが開放することでソファに座り日向ぼっこや談話をされる特養やショートステイの利用者の方もおられ、特養やショートステイの利用者の方々もご近所さんという捉え方をし、大切にお付き合いを重ねている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせたデザインの行事予定表を貼ることで季節を感じてもらう。毎日の掃除を利用者と共に行い居心地のよい居場所にして、洗剤の匂い、炊事時のまな板の音や、御飯の炊ける匂い、入浴の水の音など、生活感を意図的に出して五感に働きかけるようにしている。	○	皆より一足先に居間に来られる利用者があり、皆のために美味しいお茶を準備されるため、お茶葉の準備などスムーズに行えるようにしている。季節の花、果物、野菜までが彩を添えている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	5階廊下に椅子を設置し居室に入らなくても利用者同士が会話できる様にしている。	○	利用者は自分で座る席を決められ、そこが自分の居場所と考えられているようで、その場が一番落ち着かれている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	馴染みのもの・仏壇・猫のカレンダーや習字の作品 などの展示をする。花や鉢植え・メダカの飼育を されている方へは、訪室時等に気かけ、困った ことがないか気を配っている。	○	今後は家族の協力を得て本人の馴染みの物をもつ と沢山置けるようにしたい。また、利用者一人一 人の生活を配慮し、動きなれた動線目線までが変 わらないように心がけている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	掃除をしている時は、換気窓を開けている。空調 調節は各居室ごとに行え、利用者の状況や要望に 応じて行っている。	○	時には、窓を全開にし、外の空気を楽しんでい る。太陽の日差しが直接当たらないように、植木 などを置いている。コーヒーを入れた後の、粉を 消臭として使用している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	ベットの高さの調節や手すり、廊下の椅子など で一服する場を作っている。車椅子は、移動する 手段ととらえ、椅子に座れることの、大切さも考 えている。身長の高い利用者には椅子やテーブル を低くしている。	○	背丈の低い利用者へは、食事の際美味しく食べ れる様その人に合ったテーブルを用意している。椅 子は、足がつく高さになっている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	メニューを見て食器を選び、必要数並べられる。 一人ひとりの湯のみ・箸・お茶碗がわかる。新聞 を玄関まで取りにいき、必要な人に渡すなど少 しの助言でできている。自分で洗濯機の使用をさ れるので、わかり易く番号を書いている。	○	朝と夕を間違えたり、混乱されるときもあるが、 わかることから、説明を行い納得され行動に移さ れるのを待っている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	アサガオの種植えを行い、育てる楽しさや花に愛 着を持ってもらえるようにしている。花の買い物 など、季節の要所で購入し季節を感じてもらっ ている。	○	ベランダのアサガオのつるが、風になびいたり花 を咲かせている。アサガオのつるは、秋にとり入 れクリスマスのリース作りに使用している。ベラ ンダで咲いた花は、テーブルの上を飾り青紫蘇や ハーブはおやつや食事で使用したりしている。新 芽で青々とした植物は、居間に持ってきて楽しん でいる。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

熱心な行事、活動を通し教えあい協力する事また日常生活の中での各自の役割とその活動に対する感謝の気持ちを表すなど利用者一人ひとりが自然な形で共同生活を営んでいる。そこに関わるスタッフは過剰に接しすぎず個々の時間を大切にその人らしさや出来る力を引き出せるよう関わっている。そして利用者がスタッフに何でも言える雰囲気作りに努め一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にしている。さらに共に生活はしていないけれど、家族との関係が続くように遠のいている家族、頻りに連絡してこられる家族それぞれの事情を踏まえ働きかけている。